

F S A
J I C P A

Playing
Field
of
CPA



I N D E X

様々なキャリアパス	2
公認会計士の活動フィールド	3
一般企業等で認められる実務従事とは?	5
M E S S A G E	7
日本公認会計士協会の活動	17

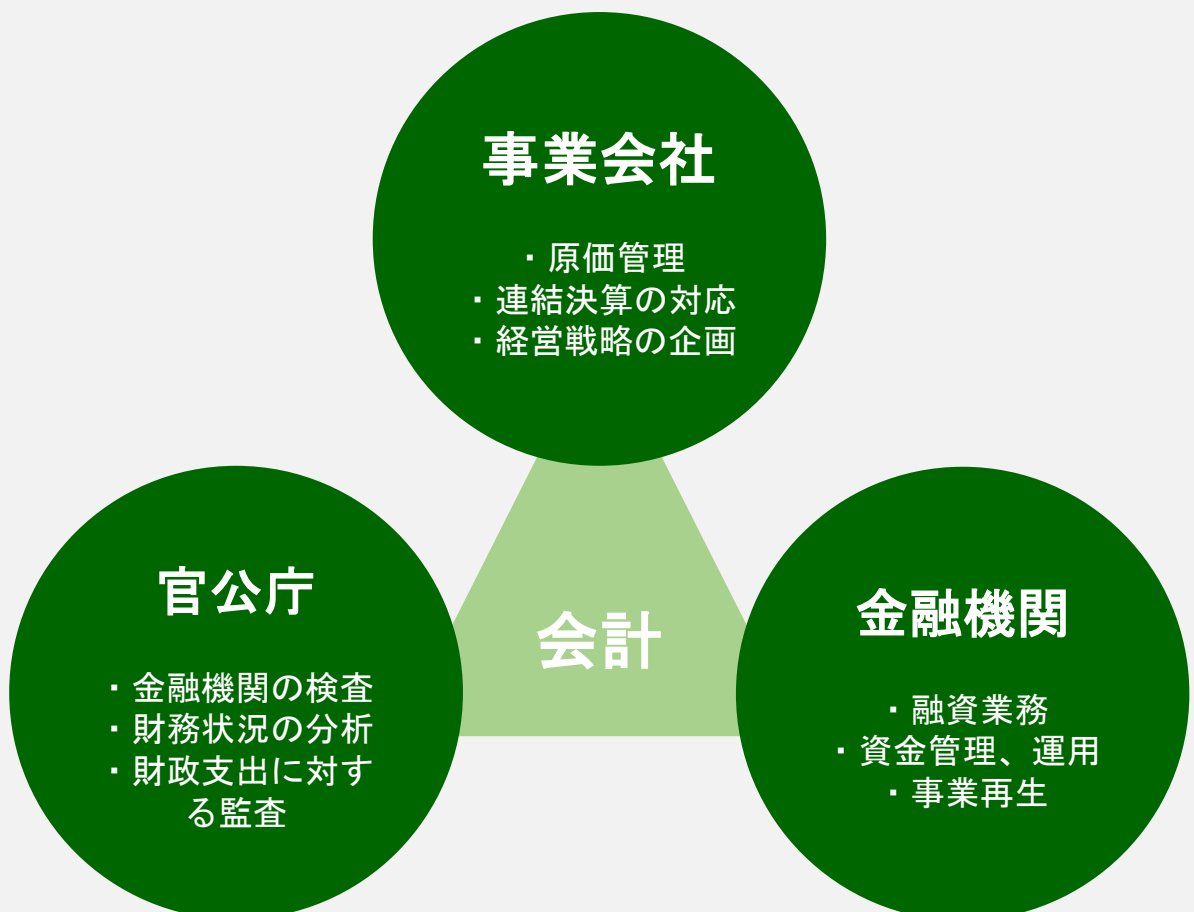
公認会計士・試験合格者の様々なキャリアパス

公認会計士＝監査法人勤務とイメージされる方が多いと思います。

しかし、監査業界に限らず、社会の様々な場面で会計専門家の知識・経験・判断力が必要とされています。

あなたも、より広い視野を持って、将来のキャリアパスについて考えてみませんか？

【会計専門家の専門的知識等が求められる分野の例】



公認会計士の活動フィールド

公認会計士は会計・監査の専門家として様々な業務が可能です。

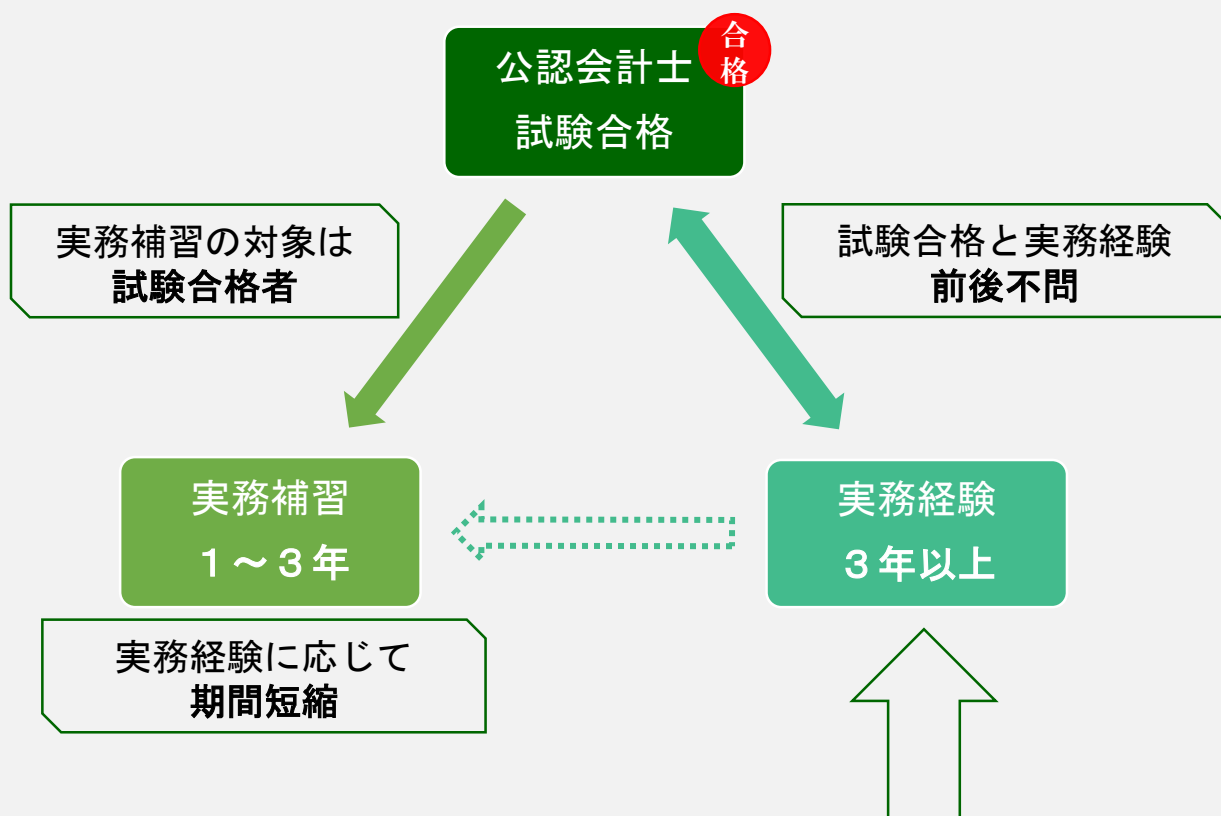
監査法人	独立開業	事業会社等 (組織内会計士)	官公庁 (組織内会計士)
監査業務 ※			
新規株式公開 (IPO) 支援			
アドバイザー (IFRS適用、新たな会計基準への対応、M&A支援 等)			
		組織内の決算業務・ 財務管理・内部監査	
			会計検査 税務調査

※監査業務には、金商法、会社法、社会福祉法、農業協同組合法など各法律で公認会計士による監査が義務づけられている法定監査と法律に基づかない任意監査があります。

監査法人に限らず、一般企業等でも 実務経験を積むことができるんです！

公認会計士の登録要件

- (1) 公認会計士試験に合格した者（免除された者を含む）であること
- (2) 実務経験（業務補助等）の期間が3年以上ある者であること
- (3) 実務補習を修了し、内閣総理大臣の確認を受けた者であること



- ・ 実務経験は、一般事業会社や官公庁における業務も対象となっています。
- ・ 業務補助と実務従事の通算も可能です。

業務補助

監査証明業務について、公認会計士又は監査法人を補助

例

業務補助：2年
実務従事：1年
通算：3年

実務従事

財務に関する監査、
分析その他の実務に従事

- ・ 勤務形態は、常勤、非常勤を問いません。

一般企業等で認められる実務従事とは？

事業会社※

● 原価計算その他の財務分析に関する事務

- ・ 決算に関する業務（単純な記帳業務は除く。）
- ・ 予算実績の管理に関する業務
- ・ 株式公開準備に関する業務
- ・ 他の事業会社の財務分析に関する業務
- ・ 財務報告に係る内部監査・内部統制に関する業務 など

※①資本金額が**5億円以上**の法人及びその連結子会社、②金融商品取引法第193条の2第1項の規定により監査証明を受けなければならない法人及びその連結子会社のいずれかに該当するもの。

金融機関

● 貸し付け、債務の保証その他これらに準ずる資金の運用に関する事務

- ・ 法人融資の業務
- ・ 株式での資産運用のための各企業の財務内容調査業務 など

官公庁※

● 国税に関する調査・検査

● 国又は地方公共団体の機関等において実施する会計に関する検査・監査

● 国又は地方公共団体において実施する原価計算その他の財務分析に関する事務 など

※調査・検査（検査・監査）先が法人の場合は、①特別の法律により設立された法人、②資本金額が**5億円以上**の法人及びその連結子会社、③金融商品取引法第193条の2第1項の規定により監査証明を受けなければならない法人及びその連結子会社、のいずれかに該当する場合に限る。

実務従事として認められるか否かについては、一律・形式的に判断されるものではなく、当該業務において、継続的に法令で定められた事務（公認会計士法施行令第2条に規定される事務）を行っていたかどうかにより、個別に判断されることとなります。

金融庁では、実務従事を含む実務経験に関する実例の紹介等、更に詳細な情報を以下のウェブサイトに掲載しています。

なお、実務経験に関するご質問等がございましたら、巻末の金融庁担当者までご連絡願います。

金融庁ウェブサイト「公認会計士の資格取得に関するQ&A」
<https://www.fsa.go.jp/ordinary/kouninkaikeisi/index.html>



実務経験（業務補助等）の期間の見直しに関するQ&A

2023年10月作成

2022年の公認会計士法改正により、**実務経験（業務補助等）の期間を2年以上から3年以上に改めることになりました。**
よくいただくご質問を以下にまとめましたので、
ご確認ください。

Q1. 実務経験（業務補助等）の期間が3年以上に改められることになりましたが、改正の背景を教えてください。

A1. 近年、企業活動のグローバル化や業務内容の複雑化・専門化に伴い、監査の現場でこれに対応できる能力を養う観点から、実務経験を通じて学ぶ知見の重要性が高まっています。また、国際教育基準において、3年の実務経験を求めることが例示されており、実際に、欧州の各国では、3年以上の実務経験要件が設けられています。こうした状況を勘案し、業務補助等の期間を3年以上に改めることになりました。

Q2. 既に実務経験（業務補助等）の期間が2年以上あります。改正法の施行後は、実務経験（業務補助等）の期間が3年以上となるよう、別途1年以上の実務経験（業務補助等）が必要となるのでしょうか。

A2. 改正公認会計士法の施行日である2023年4月1日時点で実務経験（業務補助等）の期間が2年以上ある者については、引き続き、公認会計士となる資格を有するために必要な実務経験（業務補助等）の期間を2年以上とする経過措置が設けられており、3年以上である必要はありません。一方、改正法の施行（2023年4月1日）時点で実務経験（業務補助等）の期間が2年未満である者に必要とされる実務経験（業務補助等）の期間は、3年以上となります。

MESSAGE

INDEX

（事業会社編）

- | | | | |
|----|-------------|-------------|---|
| 01 | 株式会社じげん | 波多野 佐知子さん… | 8 |
| 02 | 株式会社日本総合研究所 | 吉田 徹さん…………… | 9 |

（金融機関編）

- | | | | |
|----|--------------|--------------|----|
| 03 | 三田証券株式会社 | 大河原 直子さん…… | 10 |
| 04 | JPモルガン証券株式会社 | 加藤 政紀さん…………… | 11 |

（官公庁編）

- | | | | |
|----|--------|------------|----|
| 05 | 四日市市役所 | 吉田 太紀子さん…… | 12 |
|----|--------|------------|----|

（監査法人編）

- | | | | |
|----|----------------|--------------|----|
| 06 | PwCあらた有限責任監査法人 | 森 直子さん…………… | 13 |
| 07 | 三優監査法人 | 和田 知明さん…………… | 14 |
| 08 | 新創監査法人 | 三輪 千晶さん…………… | 15 |
| 09 | 吉田恵美公認会計士事務所 | 吉田 恵美さん…………… | 16 |

※ 所属等はインタビュー時点のものです。



株式会社じげん

波多野 佐知子さん (30代)

キャリアの選択肢を広げ、事業会社で働く

試験に挑戦した理由・動機

父が公認会計士で、独立開業しており、幼いころから馴染みの資格でした。父の勧めもあり、女性として手に職を持つことや、自身の力で稼ぐ力を得ていくことは重要だと思い、資格取得を目指すようになりました。

これまでのキャリア

公認会計士試験合格後、あずさ監査法人（現・有限責任あずさ監査法人）に入所。国際事業部で法定監査等に従事。その後当時上場準備中のライフネット生命保険(株)に転職。上場準備や、経理実務等を行い、途中、半年ほどの産休・育休も経験しました。MBAの勉強中、より自分の可能性を広げたいと思い、現在の(株)じげんに入社。経理・IR・労務・総務・情報システム等のコーポレート部門を管掌、昨年取締役役に就任しました。

現在の業務内容、魅力、やりがい

監査法人勤務中に、外部からだけではなく、会社の中に入って当事者意識を持ち、主体的に物事を推進したいと思い事業会社に転職しました。前職のライフネット生命では上場準備メンバーとして会社を上場に導く一端を担うことができ達成感も大きかったです。現職のじげんでは、M&Aが経営戦略に組み込まれている等、コーポレートアクションが非常に多い会社です。まず、連結決算、内部統制、デューデリジェンス、PMIの過程で公認会計士が持つ専門性を直接的に生かし貢献することができます。また、IRやファイナンス、人事労務や総務など、職種を広げて自身の可能性を広げ、貢献する範囲を広げることができます。さらに、企業価値を上げるためにすべきことを発案・決定し、実行・解決まで推進することができる点が最も魅力だと感じています。特に直近では、課題解決型ではなく、価値を向上するためのミッション設定から社長とディスカッションする機会も多く、難しくもありますがやりがいに感じています。

メッセージ

公認会計士がもつスキルのカバー範囲はとても広く、自分次第でキャリアの選択肢は広がると思っています。自分の枠を狭く捉えず、様々なことにチャレンジしましょう。そして事業会社で働く仲間が増えると嬉しいです。



株式会社日本総合研究所
吉田 徹さん（40代）

替えの利かない、頼りにされる存在

試験に挑戦した理由・動機

大学合格直後に「会計士試験を目指す」という友人に誘われて専門学校にパンフレットを貰いにいったのがきっかけでした。取り立てて強い動機があった訳ではないですが、一緒に勉強して合格を目指す仲間がいたのは運が良かったと思います。

これまでのキャリア

大学在学中の1994年に会計士試験合格後、1996年に銀行に就職し、監査法人に転職した後、事業会社勤務を経て現職に就いています。

最初の就職先に銀行を選んだ理由は、会計・監査や経理という特定領域に偏るのではなく、様々な世界を見て社会経験を積み、広くビジネス全般の知識やスキルを身に付けたいと考えたからです。今も民間企業勤務を選択しているのも同じ理由です。

現在の業務内容、魅力、やりがい

銀行での最初の3年間は支店の営業マンとして預金集めや融資、相続など、会計資格とは縁遠い業務でした。その後、銀行の経理決算部署で決算業務、監査法人では会計監査や各種コンサル業務、事業会社では内部統制監査業務などを行い、今の会社ではそれらの経験をもとに、会計領域をはじめ、経営戦略やガバナンス、マネジメントなど、主に経営管理全般を領域とするコンサルタントとして活動しています。

現職も含め、私は、監査法人勤務時代を除くほとんどの期間を、「周囲に会計士が居ない職場」で過ごしてきましたが、自分とは全く異なる価値観や知識・スキルを持つ様々なビジネスパーソンと日々接することが、新たな気付きや刺激となり、やりがいに繋がっていると感じます。また、このような職場環境では、唯一の会計専門家として周囲から見られることになるので、重圧や負担を感じつつも、替えが利かない存在として期待され、頼りにされるということが一種のやりがいに繋がっているようにも感じます。

メッセージ

私自身が日々の仕事や今後のキャリアなどに、まだまだ悩み迷いながら過ごしているので、偉そうなことを言える立場ではないのですが、これまで様々な場面で悩み、迷ったときに私の助けになったのは、先輩や同僚、後輩を含め多様な人々との出会いやコミュニケーションでした。会計士資格は、ある意味では「会計とは縁遠い世界に入っていくためのチケット」とも考えられるように思いますので、様々な世界を覗いてみるのも悪くないと思います。いつかどこかでお会いできるのを楽しみにしています。



三田証券株式会社

大河原 直子さん (40代)

バックオフィスの安定を通じて企業に寄与する

試験に挑戦した理由・動機

大学在学中に何か資格を取得したいと思っていたときに、大学の入学案内に学内ダブルスクール「経理研究所（公認会計士養成講座）」のパンフレットが入っていたのが目に留まりました。そこに通い始めたのが試験勉強をはじめたきっかけです。

これまでのキャリア

大手監査法人で、主に証券会社、リース会社、食品メーカー等の法定監査業務に従事しました。メインで担当した会社の、企業買収に先立った企業評価を行うデューデリジェンス業務、IPO(株式公開)業務等にも関与しました。

金融危機後の景気悪化による監査法人不況と、いわゆる「小1の壁」が重なり、監査法人を退職しました。監査法人を退職するタイミングで現在の勤務先からお声をかけていただき入社しました。

現在の業務内容、魅力、やりがい

証券会社の財務及び経理業務に携わっています。証券会社は、外部環境の影響を受けやすく浮き沈みの激しい業界ですが、その中でもアイデア豊富な経営者の想像力と実行力がかみ合い、事業・サービスの分散効果を発揮させ、19期連続黒字を達成しています。

証券会社のバックオフィス業務は裏方で目立たない業務ですが、新たな事業等の導入にあたっては、その都度、コンプライアンス等を管轄する管理本部とリスクマネジメントを共有した上で、資金繰り・会計処理・自己資本規制比率の影響等を検討し、ボーダーに考えをフィードバックできるので、忙しくも充実した日々を過ごしています。

また業務が多岐にわたっているため、バックオフィス業務の日常業務も多岐にわたっています。部内外の方とのコミュニケーションを通じて日常業務の効率化の手段が閃いた瞬間は、特に満足感を得られます。

バックオフィスが安定していると、企業が持つ経営資源を最大限に活用することができ、さらには精度の高い経営判断にも繋がっていると自負しています。

メッセージ

監査法人時代に培った知識、経験及び人脈にも恵まれ、家族のサポートを受けながら私は幸いにも子育てと仕事の両立を図ることができております。

資格を取得することによって、たとえ監査業務に携わらなかったとしても自分の今後の可能性を増やすことができ、また、レベルの高い環境に身をおけることによって、自分の成長をより感じる資格だと思っています。



JPモルガン証券株式会社
加藤 政紀さん (40代)

公認会計士という資格に囚われない選択を！

試験に挑戦した理由・動機

高校時代に自らの市場価値を高めるには難関国家資格取得であると考え、弁護士と公認会計士のうち自分は法律向きではなく数字に強いのではと、公認会計士を目指すことにしました。大学に入り一旦忘れかけた目標でしたが、人生を後悔なく過ごすべきと、一発合格に向けて必死に勉強したことを記憶しています。

これまでのキャリア

職業的専門家としての一面にも憧れましたが、クライアントとの関係構築からビジネスを獲得することにより興味を持ち、当時としては亜流ながら、合格後は大手都市銀行に勤めました。幅広い金融サービスに従事する充実した日々でしたが、ある時、米国大手投資銀行であるJPモルガンに勤めるチャンスに巡り合い、グローバルなビジネス環境に身を置いてみたいとの気持ちから思い切って転職し、早20数年を経過しております。

現在の業務内容、魅力、やりがい

現在は、債券資本市場部長として、本邦の金融法人、事業法人様に対して債券を通じた海外資本市場での調達、アドバイザー業務を提供する責任者を務めています。本邦大手企業のグローバル戦略推進は待ったなしの展開であり、それに関連した海外資本市場を活用した調達は、この5年で大きく展開している状況にあります。1. 海外資本市場アクセスによる調達手段多様化、2. 国内外大型買収など成長戦略に資する資金調達、3. 企業のESG戦略をグローバルに訴求する手段としてのESG債の発行、何れもクライアントにとっても経営の重要なテーマで、大きなやりがいを感じています。公認会計士としての資格は、直接ではなくとも企業財務に明るいことが求められる投資銀行業務に有益ですし、財務会計のみならず、企業法（当時の商法）、経営学と言った受験科目も、現在の基礎に役立ったと感じます。

メッセージ

難関国家資格、職業的専門家としての公認会計士の存在は、私が合格した頃と比べても大きな変化を遂げています。資格はゴールではない一方で、勝ち取った合格は、皆さんの将来の可能性に幅を持たせることでしょう。皆さんのこれからの成功を願っております。



四日市市役所

吉田 太紀子さん (50代)

官公庁で資格を活かす

試験に挑戦した理由・動機

大学卒業後長く仕事を続けたかったため、資格がある方が有利だと考えていました。公認会計士試験は大学の専攻（経済学）と親和性が高く、合格後は自分の希望に合ったメリットが得られると考え、試験に挑戦しました。

これまでのキャリア

大手監査法人に長く在籍し、地方事務所及び東京事務所で監査を中心に多種多様な業務を経験しました。国内及び外資系の様々な規模や業種の企業監査の他、英文財務諸表作成支援や株式上場準備の支援、英文翻訳等、監査以外の業務にも従事しました。監査法人退職後は自治体の包括外部監査や、企業監査の補助のほか、企業の社外役員にも就任しました。また、税理士登録を経て税務相談対応やセミナー等の講師経験も重ねました。

現在の業務内容、魅力、やりがい

新地方公会計に基づく決算書（統一的な基準による財務書類等）の作成、開示、分析と、分析結果に基づく行財政改革につながる課題提起や改革支援が主な業務です。統一的な基準による財務書類は国や地方公共団体の会計（官庁会計）に発生主義を取り入れたものであり、官庁会計（現金主義）の限界を補完する情報提供手段として位置づけられています。そのため、単に財務情報を提供するのみならず、自治体職員の理解促進や、行財政改革への利活用につなげる取組の実績をあげることも期待されています。自治体が行っている業務は多数の住民の多種多様な利害に影響が及ぶため、慎重な対応が必要となります。その中で新しい会計の観点から課題提起にとどまらない取組を行うことは容易ではありませんが、それだけにやりがいや魅力があると認識しています。また、業務遂行に当たりこれまでに経験した多種多様な業務経験が大いに役立っていることも魅力です。

メッセージ

公認会計士は人々が信頼を寄せる資格の一つです。信頼に応えるためにはしっかりした基礎と日頃の研鑽が欠かせません。自己満足にとどまらない目的意識を保持することが重要だと考えます。



PwCあらた有限責任監査法人
銀行・証券アシュアランス部
森 直子さん (40代)

自分の中にある可能性に挑戦！

試験に挑戦した理由・動機

当時は就職氷河期でしたので、世の中に出るにあたって何か資格が欲しいと思っていました。その中でも経済の根幹を支え、活躍の幅が広い公認会計士という仕事に、知れば知るほど可能性と魅力を感じたためです。

これまでのキャリア

PwCに入所以来、一貫して金融業を専門としたキャリアを歩んできました。年次の若いころは金融機関、特に外資系金融機関の監査業務が多かったですが、2010年から2年間PwCのニューヨークオフィスに出向した後は、むしろ外資系にとどまらず日系金融機関の監査やアドバイザーにも業務の幅が広がりました。日系の金融機関も今や業務のフィールドはグローバルですので、海外経験が活かせる場面が多いと感じています。

業務内容、魅力、やりがい

現在は、国内外の金融機関の監査、アドバイザー業務に加えて、所属部門の人事や法人全体の採用など幅広い業務を担当させていただいています。一貫して金融に携わって参りましたが、金融ビジネス自体は変化し続けています。テクノロジーの発達、国内外の規制の変化、他業種からの金融ビジネスへの参入、いずれも金融業界に大きな変化をもたらしている一方で、金融が経済を回すための欠かせない存在であることは変わりません。このような業界を公認会計士として間近で見続けることができ、また、監査やアドバイザー様々な業務を通じてサポートできることは大きな魅力ですし、常に頼られる存在でありたいと思うことは日々の業務へのやりがいにもつながっていると思います。また、人事や採用の仕事は、これから公認会計士として活躍を期する若い方々をサポートしているようでありながら、コミュニケーションの中でこちらが気づかされることも多く、やりがいと楽しさを強く感じています。

メッセージ

この仕事を始めて20年以上が経ちましたが、いまだに日々新しい発見があります。監査法人で働くということは、それだけ幅が広く、奥が深いものだ改めて実感します。ぜひ皆さんも公認会計士としてご自身の中にある可能性に挑戦して頂きたいと思います。



三優監査法人

和田 知明さん (30代)

公認会計士が活躍できるフィールドは多岐にわたる

試験に挑戦した理由・動機

大学入学後「自分の強みになる専門資格を取りたい」と考えたことがきっかけです。公認会計士は難関資格ながら在学中に合格できる可能性があることや、監査にとどまらずIPO支援・税務・コンサルティング業務などフィールドは多岐にわたり、プロフェッショナルとして幅広く活躍できる点に魅力を感じました。

これまでのキャリア

大学卒業と同時に大手監査法人に入所し、化学、自動車、不動産等の監査に従事しました。企業の不正事例が発生するなか監査品質の強化に重点が置かれる環境にあり法定監査業務が中心でしたが、経験を重ねるにつれ、監査+αの価値を社会に提供し、自身もこれらを同時に経験することでプロフェッショナルとして早く成長したいと考えるようになりました。

そこで、高い監査品質に加え柔軟性があり、希望次第で監査と同時に様々な業務にもチャレンジできる環境を求め、三優監査法人に転職しました。

現在の業務内容、魅力、やりがい

監査業務、IPO支援業務、法人組織業務が中心です。

監査業務では、高品質な監査を提供するためのチームマネジメントが主な役割です。また、クライアントが抱える課題や意思決定に際して助言指導も求められ、これに応えることも重要な役割です。

IPO支援業務では、監査に加え会社のガバナンス体制、決算開示体制、規程類、内部統制の改善提案など、アドバイスを求められる領域は多岐にわたります。コンサルティング業務に近いものがあり、監査法人の立場から厳しく指導しつつもクライアントの成長に寄り添い同じ目標を目指すやりがいのある業務です。IPOを目指す会社には勢いがあり、既存市場にはない新たなサービスを展開する企業も多く刺激を受けます。

法人組織業務では、三優のDNAであるIPO分野の業務推進プロジェクトや、法人の強みである監査品質を更に高めるための品質向上推進プロジェクトに参画しています。これらの業務においても一人の会計士としての意見が尊重され、組織の成長に貢献できるとともに会計士としての成長を実感します。

メッセージ

公認会計士が活躍できるフィールドは多岐にわたり、可能性は無限に広がっています。初心を忘れず自分の将来を見つめ、様々な事にチャレンジしてください。皆様のご活躍を心より願っています。



新創監査法人

三輪 千晶さん (30代)

自分が目指した会計士像を大切に

試験に挑戦した理由・動機

公認会計士を目指し始めたのは中学生の時でした。将来の夢を考える中で、「公認会計士」という資格があるということを知ったのですが、何をやっているのか全く分からず調べ始めたのがきっかけで、目指すようになりました。

これまでのキャリア

私は、大学卒業と同時に現在の監査法人に入所し、8年半ほど勤めています。中小監査法人は法人ごとに行っている業務に特色がありますが、私が勤めている監査法人は国内の監査業務が中心業務となります。監査業務としては業種もさながら、法人形態としても、株式会社はもちろん、学校法人、投資法人、匿名組合等、様々な法人形態に関与してきました。

また、公認会計士協会の地域会の一つである東京会にも学校法人委員会委員として関与したこともあります。

現在の業務内容、魅力、やりがい

私は今、監査業務を中心に行っており、監査チームの中でも主査というチームの取り纏め役を担っていることが多いです。

監査と聞くと、硬いイメージや怖いイメージを持たれる方も多くいらっしゃるかと思います。実際、監査基準に準拠して独立の立場から財務諸表等を検討しなくてはならず、そういった側面もあります。ただ、それだけではなく、企業において日々新しい会計基準やビジネスが発生している中、会計や内部統制の側面からアドバイスをする等、指導的機能を発揮出来るのも監査人の仕事であり、やりがいだと思っています。

監査人は、監査上のリスクを洗い出すためにも会社内部からは少し離れた立場から、クライアントである会社や会社を取り囲む環境のことをよく知り、理解することが求められています。だからこそ持てる視点を生かして、会社と一緒に悩み、解決するお手伝いをしていければと考え、日々努めています。

メッセージ

公認会計士試験合格おめでとうございます。公認会計士の仕事はプロとしての知識や見識、判断が求められます。公認会計士として歩んでいくなかで、何度も壁にぶつかることもあるかと思いますが、自分が目指した会計士像を大切に、目標に向かって歩んでいってください。



吉田恵美公認会計士事務所

吉田 恵美さん (40代)

公認会計士を目指す女性が増えていくことを期待

試験に挑戦した理由・動機

大学は商学部でしたが、在学中は簿記2級まで取得し、教育関係の企業に総合職として就職しました。しかしながら、子供たちの可能性の追求に貪欲な姿を見て、自分自身も、夢をあきらめちゃいけないなど、1年で退社し、公認会計士試験に挑戦しました。

これまでのキャリア

監査法人のIPO部門に7年半ほど在籍し、妊娠出産を経て、独立事務所として活動を始めました。業務内容は流動的に変化し、IPOを目指す会社の支援や一般企業への財務アドバイザー、ベンチャー企業の監査役等に関与してきました。千葉市や習志野市での審議会(有識者や市民の第三者会議)の委員や東京都の政策連携団体(外郭団体)である東京都下水道サービス株式会社の社外役員にも就任しています。これまで、税理士登録は行っていません。

現在の業務内容、魅力、やりがい

公認会計士の強みは、数字で事実を客観的に捉えることができ、かつ、数字の説明がつかない事象はおかしいと言えることだと思います。最初は、ちょっとした違和感に過ぎないのに、その違和感をやり過ぎたせいで、後から大きな問題となったり、逆に、「なんかおかしいな」と思いながら深掘りしていくと、想像以上の問題が潜んでいることもあります。

公認会計士の独占業務である監査での経験は、大っぴらにお話ができませんが、監査業務で身につく、数字を読み解く力というのはものすごい武器となり、様々な場面で役立ってくれます。

私は、子供のころから数字や計算が大好きでしたが、今は、その数字や計算の渦に埋もれ、人に感謝され、お金までいただけるなんて、ありがたいなあと思い、「公認会計士ほど楽しい仕事はない」と考えています。これはあくまでも私にとってのことですが、働く多くの方が、ご自身の仕事ほど、楽しい仕事はないと思えることができれば、とても幸せな世界なのではないでしょうか。

メッセージ

現在、日本の公認会計士の女性比率は、15%程度に留まっていますが、東南アジアでは半数を超えているそうです。ライフイベントに左右されやすい女性にとって、自分の裁量で仕事をするのが公認会計士の魅力だと思います。是非、多くの女性に、やりがいのある仕事として取り組んでいただきたいです。

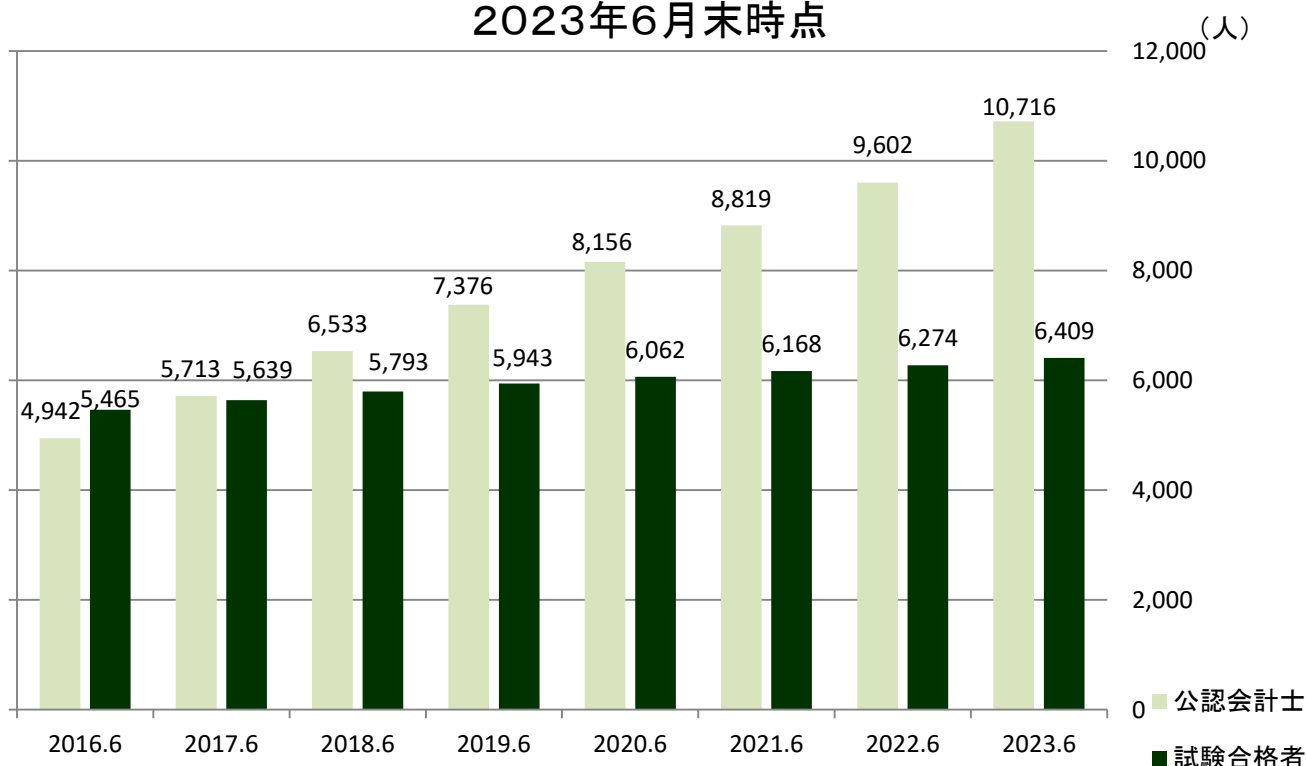
日本公認会計士協会では、公認会計士・試験合格者のための求人情報サイト「JICPA Career Navi」を運営しています。

当サイトでは、「JICPA Career Navi」に登録した公認会計士・試験合格者に対して、希望にマッチした企業等の情報を提供しています。一般企業等への就職・転職にご興味を持たれた方は、まず「JICPA Career Navi」にアクセスしてみてくださいはいかがでしょうか。



「JICPA Career Navi」アドレス <https://career.jicpa.or.jp/>

JICPA Career Navi の求職登録者数の推移(累計)
2023年6月末時点



組織内会計士ウェブサイト

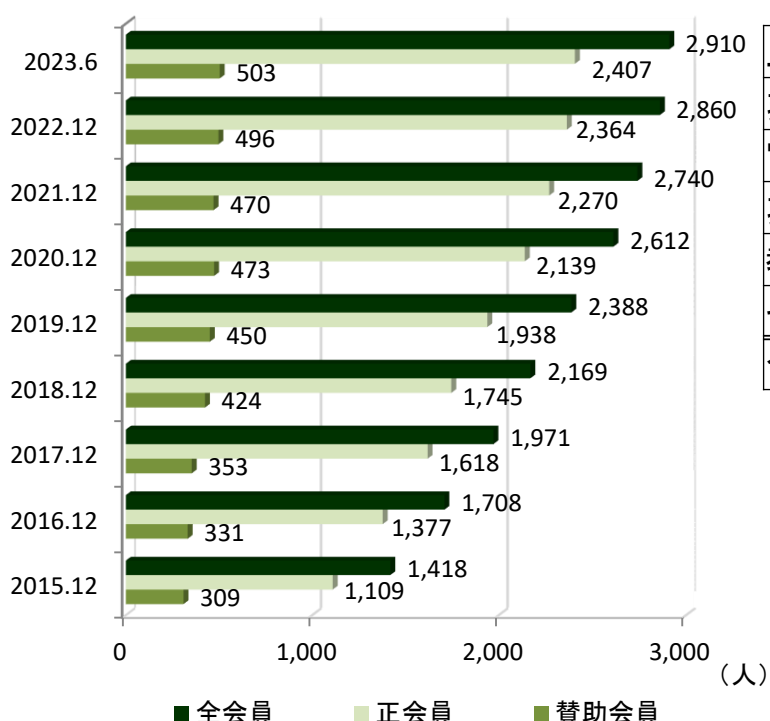
「組織内会計士ウェブサイト」とは、企業等で活躍する組織内会計士に対する施策の周知、研修会や交流会などの情報提供を行うウェブサイトで、日本公認会計士協会が運営しています。

日本公認会計士協会では、一般企業等に所属する組織内会計士や、当該業務に関心のある会員・準会員を対象とした、研修会や交流会の企画や調査研究活動を行っています。また、2012年11月より、組織内会計士への情報提供のためのネットワークを運営しています。



「組織内会計士ウェブサイト」アドレス <https://jicpa.or.jp/business/paib/>

組織内会計士ネットワーク会員数
(2023年6月末時点)



正会員の勤務先種別
(2023年6月末時点)

勤務先種別	人数 (人)
上場会社	1,168
非上場会社	981
官公庁(行政・自治体等)	50
非営利法人	31
教育機関	34
その他	143
合計	2,407



金 融 庁

Financial Services Agency



日本公認会計士協会

The Japanese Institute of Certified Public Accountants

2023年10月発行

【本パンフレットに関するお問合せ先】

- 金融庁 企画市場局 企業開示課 開示業務室

Tel 03-3506-6000（代表） 内線3811、3672

- 日本公認会計士協会

公認会計士等無料職業紹介所

Tel 03-3515-1135（直）

近畿会公認会計士等無料職業紹介所

Tel 06-6271-0400（直）